



# けん玉発祥の地でおこなう 「けん玉体験教室」



～「木工のまち」広島県廿日市市は「けん玉発祥の地」です！「はつかいち」ならではの体験です！！～

## <基本体験内容>

- けん玉名人によるけん玉実技披露～参加者全員でのけん玉体験～「秘技・カブトムシ」での記念撮影（撮影代は別途）
- 所要時間は約40分
- 一度に最大70～80名くらいまで可能



## <アレンジ編>

- ★「ベストペインティング賞を決めろ！」  
ご旅行前に無垢のけん玉を購入し各自ペイント。完成後生徒全員で優秀賞（3名程度）決定。  
旅行当日発表！
- ★チーム対抗で「もしかめ対決！」&「カブトムシ相撲」  
ご旅行前より各自けん玉練習。班ごとなどで回数を競います。

～これらの体験を通し

集中力

体力強化

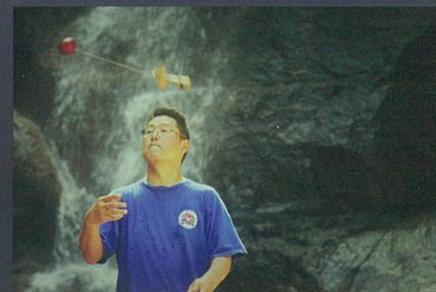
チーム  
ビルディング

などが養えます。



## 「けん玉名人」砂原宏幸氏プロフィール

- 砂原夢企画 代表 kendama shop&salon 夢。オーナー けん玉ワールドカップ実行委員  
けん玉道5段 日本けん玉協会西広島支部長
- ・1953年3月生まれ ・1978年～2006年小学校教諭 ・2006年4月～ 砂原夢企画
  - ・2008年～2009年 廿日市観光親善大使
  - ・2012年 全国もしかめ選手権大会40代以上の部 優勝
  - ・2013年 全国もしかめ選手権大会 シニアの部 優勝
  - ・2014年6月 全国で初めてのけん玉専門店を広電廿日市駅前にオープン
  - ・第1回 けん玉ワールドカップ廿日市2014 実行委員会 委員
  - ・2015年 けん玉ワールドカップ廿日市2015 実行委員会 委員
  - ・2016年3月 けん玉ショップ&サロン夢。  
2号店を広島市西区観音新町マリーナホップにオープン  
4月 日本紙けん玉協会を発足。会長就任。



### <けん玉の歴史>

けん玉のルーツは江戸時代、中国から長崎へ伝えられた(オランダからとも言われる)。フランス語で「ビルボケー」、英語では「カップ・アンド・ボール」と呼ばれ、19世紀にはフランスをはじめ、欧米で盛んに行われていた。16世紀のフランス銅版画が最古の資料として残っている。

大正7年(1918)10月、広島県呉市の江草濱次氏が、明治期のけん玉に受け皿を取り付けた新型「日月ボール」を考案。翌8年5月、実用新案として登録した。

大正10年、廿日市のろくろ木工場、本郷木工(現在、(株)本郷)を江草氏が訪れ、けん玉づくりが廿日市で始まった。

大正12年から昭和5年頃までけん玉は全国的に流行し、やがては満州、台湾にまで販路を拡張した。その後、玩具としてわずかに生産は続けられていたが、戦時期に一時中断。戦後の観光ブームにあやかり土産用として全国の観光地に進出、廿日市でのけん玉製造業者は6社を数えた。

最盛期には廿日市のけん玉の生産は全国シェアの40%を占めていたが、昭和50年以降需要が減少し、製造業者も次々と撤退。

平成10年を最後に皆無となっていたが平成12年11月、場所を広島県木材利用センターに移し、廿日市市産業振興公社によって平成10年以来、けん玉づくりが発祥の地であるはずつかいちで2年ぶりに再開。

### <けん玉ワールドカップ>

第1回を2014年に廿日市市で開催。世界11か国から50名以上の選手が来日。

毎年7月に行われ二日間で5万人以上の観客が訪れる、世界最大のけん玉イベント！

詳しくは⇒<https://www.gloken.net/jp/>



### <当館とけん玉>

2013年より繁忙期に一般のお客様向けに「けん玉教室」を開催スタート。

2014年初頭、当館社長がふらりと廿日市駅前の飲み屋に立ち寄ると「けん玉ワールドカップ」開催を画策していたメンバーと遭遇。「ちょうどいいところに来た！」と歓待を受け？海外選手団の宿泊受け入れを打診される。生ビール1杯と引き換えに即OKとなる。

2014年7月「第1回けん玉ワールドカップ」の選手村「DAMA Village」として海外選手団の受け入れ。約50名様が4泊にわたり宿泊。

大会前々日には宮浜温泉グラウンドゴルフ場に於いて、「前前夜祭」を勝手に敢行。地域の小学生など約200名を集め選手たちとのふれあいの場所を提供した。

2015年より教育旅行の体験メニューとして供給開始。初年度より数校の実施実績あり。

またフロントスタッフは全員けん玉検定を受け、各自「級」をけん玉協会より認定されている。



第1回けん玉ワールドカップ前前夜祭(2014年)

当館でのけん玉教室の様子

